

専門家によるモニタリングコメント・意見【感染状況】

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
		<p>このモニタリングコメントでは、過去の流行を表現するために、便宜的に東京都における第1波、第2波、第3波、第4波及び第5波の用語を以下のとおり用いる。</p> <p>第1波：令和2年4月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波            第2波：令和2年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波            第3波：令和3年1月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波            第4波：令和3年5月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波            第5波：令和3年8月に新規陽性者数の7日間平均がピークを迎えた波</p>
		<p>世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスの変異株の呼称について、差別を助長する懸念から、最初に検出された国名の使用を避け、ギリシャ語のアルファベットを使用し、イギリスで最初に検出された変異株については「B.1.1.7 系統の変異株（アルファ株等）」、インドで最初に検出された変異株については「B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）」、南アフリカで最初に報告された変異株については「B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）」という呼称を用いると発表した。国も、同様の対応を示している。</p> <p>このモニタリングコメントでは、以下、B.1.617 系統の変異株（デルタ株等）については「変異株（デルタ株）」、B.1.1.529 系統の変異株（オミクロン株等）については「変異株（オミクロン株）」とする。</p>
① 新規陽性者数	①-1	<p>都外居住者が自己採取し郵送した検体について、都内医療機関で検査を行った結果、陽性者として、都内保健所へ発生届を提出する例が見られている。</p> <p>これらの陽性者は、東京都の発生者ではないため、新規陽性者数から除いてモニタリングしている（今週1月4日から1月10日まで（以下「今週」という。）は42人）。</p> <p>(1) 新規陽性者数の7日間平均は、前回1月5日時点（以下「前回」という。）の約135人/日から、1月12日時点で約1,136人/日に大きく増加した。</p> <p>(2) 新規陽性者数の増加比が100%を超えることは感染拡大の指標となり、100%を下回ることは新規陽性者数の減少の指標となる。今回の増加比は約843%となった。</p> <p><b>【コメント】</b>            ア) 新規陽性者数の7日間平均は、1月12日時点で約1,136人/日と、前回の約135人/日から、わずか1週間で約8倍に増加し1,000人/日を超えた。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>イ) 増加比は、前回の約308%から、今回は約843%と著しく上昇し、これまでに経験したことのない高水準となった。この水準が継続すると、1週間後の1月20日の推計値は、8.43倍の約9,576人/日と、危機的な感染状況となる。</p> <p>ウ) 1月12日時点で、都内の変異株（オミクロン株）陽性者は139人となった。このうち、海外への渡航歴がなく、感染経路が不明な陽性者は102人に増加した。これまでの変異株（デルタ株）より感染拡大のスピードが速いとされる変異株（オミクロン株）による感染が、急速に拡大しており、変異株（デルタ株）から変異株（オミクロン株）への置き換わりが進行していると思われる。</p> <p>エ) 感染が急速に拡大すると、家庭や日常生活において、医療従事者、エッセンシャルワーカーを含むすべての都民が、感染者や濃厚接触者となるリスクが高まり、就業制限を受ける者が多数発生するため、社会活動の停止を余儀なくされる可能性がある。社会活動を維持し、都民の生活を守るための対策を早急に検討する必要がある。</p> <p>オ) 都では、入国帰国後、自宅で14日間待機する都民の方を対象に、感染の早期発見・不安解消のため、PCR検査キットを配付している。</p> <p>カ) 変異株 PCR スクリーニングやゲノム解析を実施するとともに 諸外国の動向や、WHO、国立感染症研究所における変異株（オミクロン株）の感染性、重症度、ワクチン効果に与える影響などの評価も踏まえ、発生状況を把握し、適切に対応していく必要がある。</p> <p>キ) 都では、東京都健康安全研究センターにおいて、変異株（オミクロン株）に対応したPCR検査を実施している。また、変異株を早期に探知するため、民間検査機関と連携して、新型コロナウイルス感染者のゲノム解析の規模拡大を進めている。</p> <p>ク) 感染拡大が急速に進んでおり、ワクチン接種を検討中の都民に、ワクチン接種は、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知し、ワクチン接種をさらに推進する必要がある。</p> <p>ケ) ワクチンを2回接種した後も感染する可能性があり、軽症や無症状でも周囲の人に感染させるリスクがあるため、ワクチン接種後も、普段会っていない人との飲食や旅行、その他の感染リスクの高い行動を引き続き避けるとともに、基本的な感染防止対策を徹底する必要がある。</p> <p>コ) 変異株（オミクロン株）の感染拡大に備え、ワクチンを2回接種した都民に対する3回目の接種を早急に推進する必要がある。このため、都は区市町村と連携して、順次、ワクチンの3回目の追加接種ができるよう、体制構築を進めている。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数		<p>サ) 医療従事者等の家族やエッセンシャルワーカーへのワクチン接種も含め、各都道府県における変異株（オミクロン株）の感染状況に応じ、効果的かつ早急にワクチンを配付することが求められる。</p> <p>シ) 気温が低い中でも換気を励行し、手洗い、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、3密（密閉・密集・密接）の回避、人混みを避けて人との間隔をあける等、基本的な感染防止対策を徹底することが重要である。</p> <p>ス) 東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによると、1月11日時点で、東京都のワクチン接種状況は、全人口で1回目78.1%、2回目77.4%、12歳以上（接種対象者）では1回目86.1%、2回目85.3%、65歳以上では1回目92.4%、2回目92.1%であった。</p>
	①-2	<p>今週の報告では、10歳未満4.2%、10代8.3%、20代40.5%、30代19.6%、40代12.4%、50代8.2%、60代3.2%、70代2.1%、80代1.1%、90歳以上0.4%であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 50代以下の割合が新規陽性者全体の9割以上を占めており、中でも20代が40.5%と各年代の中で最も高い割合となっている。12歳未満はワクチン未接種であることから、保育園・幼稚園や学校生活での感染防止対策の徹底が求められる。</p> <p>イ) 感染の中心である若年層を含めたあらゆる年代が感染によるリスクを有しているという意識を持つよう、引き続き啓発する必要がある。</p>
	①-3 ①-4	<p>(1) 新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者数は、前週（12月28日から1月3日まで（以下「前週」という。）の40人から、今週は265人となり、その割合は4.9%となった。</p> <p>(2) 65歳以上の新規陽性者数の7日間平均は、前回の約9人/日から1月12日時点で約59人/日となった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 医療機関や高齢者施設等では、ワクチンを2回接種した職員及び患者や入所者も、基本的な感染防止対策を徹底・継続するとともに、3回目接種を推進する必要がある。また、職員や患者家族からの感染防止対策を徹底する必要がある。</p> <p>イ) 65歳以上の新規陽性者数も大きく増加している。高齢者は、重症化リスクが高く、入院期間も長期化することが多いため、家庭内及び施設等での徹底した感染防止対策が重要である。</p>
	①-5 -ア ①-5	<p>(1) 今週の濃厚接触者における感染経路別の割合は、同居する人からの感染が49.4%と最も多かった。次いで会食による感染が14.5%、職場での感染が6.2%、施設（施設とは、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等」をいう。）及び通所介護の施設での感染が4.4%であった。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
① 新規陽性者数	ーイ	<p>(2) 今週は 20 代及び 30 代における会食での感染例が多数見られた。また、高齢者施設や部活動での感染例、大規模なパーティーで参加者の多くが感染した例などが見られた。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 少しでも体調に異変を感じる場合は、外出、人との接触、登園・登校・出勤を控えるよう周知する必要がある。</p> <p>イ) 今週は、会食による感染が先週の 9.4% から 14.5% へと、大きく上昇した。普段会っていない人との会食の機会は、新たな感染拡大の契機になる可能性がある。長時間、大人数で会話をする事等により感染リスクが高まることから、友人や同僚等との会食は、できる限り短時間、少人数とし、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要がある。</p> <p>ウ) 施設での感染を防止するため、保育園・幼稚園、教育施設、高齢者施設等における、感染防止対策をより一層徹底する必要がある。</p> <p>エ) 職場での感染を防止するため、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇取得を積極的に勧めるとともに、テレワーク、オンライン会議、時差通勤の推進、3密を回避する環境整備等の推進と、基本的な感染防止対策を徹底することが引き続き求められる。</p>
	①-6	<p>今週の新規陽性者 5,380 人のうち、無症状の陽性者が 453 人、割合は前週の 12.3% から 8.4% となった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 今週は、症状が出てから検査を受けて陽性と判明した人の割合が高かった。</p> <p>イ) 症状がなくても自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合は、検査を受けるよう周知する必要がある。無症状や症状の乏しい感染者からも感染が広がることもあり、症状がなくても感染源となるリスクがあることに留意して日常生活を過ごす必要がある。</p>
	①-7	<p>今週の保健所別届出数を多い順に見ると、世田谷 407 人 (7.6%) と最も多く、次いでみなと 365 人 (6.8%)、新宿区 342 人 (6.4%)、大田区 295 人 (5.5%)、多摩府中 281 人 (5.2%) であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>感染拡大に備え、都、保健所、医療機関等が連携し、地域全体で早期発見、早期治療の体制を強化する必要がある。</p>
	①-8 ①-9	<p>今週は、都内保健所のうち約 90% にあたる 28 保健所で、それぞれ 100 人を超える新規陽性者数が報告された。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
		<p><b>【コメント】</b> 変異株（デルタ株）から変異株（オミクロン株）への置き換わりが進んでおり、急速な感染拡大に警戒する必要がある。</p>
② #7119 における発熱等相談件数	②	<p>#7119 の増加は、感染拡大の予兆の指標の1つとしてモニタリングしてきた。都が令和2年10月30日に発熱相談センターを設置した後は、その相談件数の推移と合わせて相談需要の指標として解析している。</p> <p>(1) #7119 における発熱等相談件数の7日間平均は、前回の84.3件から1月12日時点で78.9件と、ほぼ横ばいであった。</p> <p>(2) 都の発熱相談センターにおける相談件数の7日間平均は、前回の約1,270件から、1月12日時点で約2,310件に増加した。</p> <p><b>【コメント】</b> ア) 発熱等相談件数の7日間平均は増加傾向にあり、急速な感染拡大に警戒が必要である。 イ) 都は、回線数を増強して、発熱相談センターの体制強化を図っている。引き続き#7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要がある。</p>
③ 新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比	③-1	<p>新規陽性者における接触歴等不明者数は、感染の広がりを反映する指標であるだけでなく、接触歴等不明な新規陽性者が、陽性判明前に潜在するクラスターを形成している可能性があるためモニタリングを行っている。</p> <p>(1) 接触歴等不明者数は、7日間平均で前回の91人/日から、1月12日時点で約735人/日となった。</p> <p>(2) 今週の接触歴等不明者数の合計は3,470人で、年代別の人数は、10代以下235人、20代1,606人、30代749人、40代429人、50代267人、60代92人、70代58人、80代以上34人であった。</p> <p><b>【コメント】</b> 接触歴等不明者数は、4週間連続して大きく増加した。接触歴等不明者の周囲には陽性者が潜在していることに注意が重要である。</p>
	③-2	<p>新規陽性者における接触歴等不明者の増加比が100%を超えることは、感染拡大の指標となる。1月12日時点の増加比は、前回の約342%から、約808%に大きく上昇した。(1月9日には約1,092%と過去最高を更新。)</p> <p><b>【コメント】</b> 増加比は、前回の約342%、今回の約808%と、100%を大きく超える値が続いている。感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐため、基本的な感染防止対策を常に徹底することが重要である。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
③ 新規陽性者における接触歴等不明者数・増加比	③-3	<p>(1) 今週の新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合は、前週の約63%から約64%となった。</p> <p>(2) 今週の年代別の接触歴等不明者の割合は、20代及び30代で70%を超えている。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) いつどこで感染したか分からないとする陽性者が、幅広い年代で高い割合となっている。</p> <p>イ) 新規陽性者との接触歴がある無症状者へのPCR検査等を推進する必要がある。</p>

専門家によるモニタリングコメント・意見【医療提供体制】

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
④ 検査の陽性率 (PCR・抗原)	④	<p>PCR検査・抗原検査（以下「PCR検査等」という。）の陽性率は、検査体制の指標としてモニタリングしている。迅速かつ広くPCR検査等を実施することは、感染拡大防止と重症化予防の双方に効果的と考える。</p> <p>7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の2.5%から1月12日時点で9.7%となった。また、7日間平均のPCR検査等の人数は、前回の約4,624人から、1月12日時点で約9,228人となった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 症状が出てから検査を受けた方の割合が増加していることが、検査の陽性率が上昇している理由の一つと考える。症状がなくても自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合や、ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症状がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センターまたは診療・検査医療機関に電話相談し、早期にPCR検査等を受けるよう周知する必要がある。</p> <p>イ) 新規陽性者数が急増しており、都は、公表を了解した診療・検査医療機関のリストをホームページ上に公表するとともに、今後、さらに増加しても十分な検査が可能となるよう、検査体制の強化に取り組んでいる。</p> <p>ウ) また都では、感染リスクの高い環境にあるなど感染不安を感じる無症状の都民が、薬局や民間検査機関等において、PCR検査等を無料で受けられる取組を都内約180か所で実施している。</p>
⑤ 救急医療の東京 ルールの適用件数	⑤	<p>東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の66.4件から1月12日時点で147.3件に大きく増加し、過去最高値を更新した。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>東京ルールの適用件数は約147件で、新型コロナウイルス感染症の発生前と比較して高い水準で推移しており、二次救急医療機関や救命救急センターでの救急患者の受入れ体制への影響は拡大傾向にある。また、救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、過去の水準と比べると依然延伸している。</p>
⑥ 入院患者数	⑥-1	<p>(1) 入院患者数は、前回の373人から、1月12日時点で954人に増加した。</p> <p>(2) 今週、新たに入院した患者は717人であった。</p> <p>(3) 陽性者以外にも、陽性者と同様の感染防御対策と個室での管理が必要な疑い患者について、都内全域で約160人/日を受け入れている。</p> <p><b>【コメント】</b></p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数		<p>ア) 感染が急速に拡大しており、医療従事者等が感染者や濃厚接触者となり、就業制限を受ける者が多数発生すれば、病床が空いていても、マンパワー不足で患者の受入れができなくなり、通常の医療も含めた医療提供体制がひっ迫することが予測される。</p> <p>イ) 都は、1月7日に「オミクロン株特別対応」を発動し、現在の病床確保レベル1(4,863床)から病床確保レベル3(6,919床)に引き上げるよう、各医療機関に要請した。重症用病床は、今後の重症者の発生状況に応じ、引き上げることとした。</p> <p>ウ) 国による変異株(オミクロン株)感染者の入退院基準の見直しを受け、宿泊療養及び自宅療養の体制強化が求められる。</p> <p>エ) 都では、軽症者等を一時的に受け入れ、酸素投与や中和抗体薬による治療なども行える酸素・医療提供ステーションを都内数か所に開設している。</p> <p>オ) 感染拡大に備え、入院重点医療機関、高齢者施設等におけるスクリーニング検査の実施、往診等による中和抗体薬投与の体制整備が求められる。また、中和抗体薬及び抗ウイルス薬の予防的投与を視野に入れた、国による安定的な供給が求められる。</p> <p>カ) 現在、入院調整本部への調整依頼件数は、新規陽性者数の急増に伴い、高い水準で推移し、1月12日時点で95件となった。入院調整本部では、変異株(オミクロン株)の感染拡大に備え、新型コロナウイルス感染者情報システムの機能拡充や体制強化を図っている。</p>
	⑥-2	<p>1月12日現在、入院患者の年代別割合は、20代が最も多く全体の約24%を占め、次いで30代が約15%であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 保育園や学校等での感染拡大に備える必要がある。このため都は、小児科を標榜する医療機関に対し、診療体制の確保を依頼している。</p> <p>イ) 第5波での妊婦の感染者急増を踏まえ、都は、分娩取扱い医療機関等に対し、診療体制の確保を依頼している。</p>
	⑥-3 ⑥-4	<p>検査陽性者の全療養者数は、前回の1,206人から1月12日時点で8,376人となった。内訳は、入院患者954人(前回は373人)、宿泊療養者2,110人(同235人)、自宅療養者2,779人(同184人)、入院・療養等調整中2,533</p>



モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
⑥ 入院患者数		<p>人（同414人）であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア）全療養者に占める入院患者の割合は約11%、宿泊療養者の割合は約25%であった。</p> <p>イ）第5波を超える感染状況に対応できるよう、感染拡大のスピードが速いとされる変異株（オミクロン株）の感染状況を踏まえ、感染者の入院医療、宿泊及び自宅療養の療養先をより効率的に選定し、円滑に療養生活へ移行できる体制を迅速に構築する必要がある。</p> <p>ウ）都は、15か所（受入れ可能数4,400室）の宿泊療養施設を確保し、施設の受入時間帯を拡大するなど、効率的な運営に取り組んできた。また、「オミクロン株特別対応」として、1月中に4,760室を確保するとともに、今後の変異株（オミクロン株）の患者の受入れに向けて、更なる宿泊療養施設の確保、開設の準備を進めている。</p> <p>エ）変異株（オミクロン株）の感染拡大による自宅療養者の急速な増加に備え、健康観察の充実を図る必要がある。このため都は、陽性判明直後からかかりつけ医や診療・検査医療機関が健康観察を開始する取組、地域の医師等による電話・オンラインや訪問診療の充実、フォローアップセンターの相談員の増員等を進めるとともに、予め人材情報を登録可能な「東京都医療人材登録データベース」を設置し、更なる体制強化を進めている。</p> <p>オ）都はこれまで、約100,000台のパルスオキシメータを確保し、区市保健所へ約27,000台配付するとともに、東京都医師会へも20,000台貸与している。また、フォローアップセンターからパルスオキシメータの自宅療養者宅への配送、自宅療養者向けハンドブックの配付、食料品等の配送を行っている。現在の感染状況を踏まえ、酸素濃縮器をさらに確保するとともに、全ての自宅療養者に行き届くよう、パルスオキシメータの確保を進めている（1月中に、さらに約108,000台を確保予定）。</p>
⑦ 重症患者数		<p>東京都は、その時点で、人工呼吸器又はECMOを使用している患者数を重症患者数とし、医療提供体制の指標としてモニタリングしている。</p> <p>東京都は、人工呼吸器又はECMOによる治療が可能な重症用病床を確保している。</p> <p>重症用病床は、重症患者及び集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者（人工呼吸器又はECMOの治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者、及び離脱後の不安定な状態の患者等）の一部が使用する病床である。</p>

モニタリング項目	グラフ	1月13日 第74回モニタリング会議のコメント
⑦ 重症患者数	⑦-1	<p>(1) 重症患者数は、前回の3人から1月12日時点で4人となった。</p> <p>(2) 今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は2人（前週は2人）、人工呼吸器から離脱した患者は2人（同1人）、人工呼吸器使用中に死亡した患者はいなかった（同0人）。</p> <p>(3) 今週、新たにECMOを導入した患者はなく、ECMOから離脱した患者もいなかった。1月12日時点において、重症患者のうちECMOを使用している患者はいなかった。</p> <p>(4) 1月12日時点で集中的な管理を行っている重症患者に準ずる患者は、人工呼吸器又はECMOによる治療が間もなく必要になる可能性が高い状態の患者等15人（ネーザルハイフローによる呼吸管理を受けている患者5人を含む）（前回は9人）、離脱後の不安定な状態の患者は1人（同4人）であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 1月12日時点で、重症患者数は4人であり、救命救急医療提供体制との両立が可能であると考ええる。</p> <p>イ) 新規陽性者数の急速な増加に伴い、中等症患者が増加すれば、一定割合で重症患者が発生する可能性があり、重症用病床の一元管理などの対策が必要である。</p>
	⑦-2	<p>1月12日時点の重症患者数は4人で、年代別内訳は10歳未満が1人、50代が1人、60代が1人、80代が1人である。性別では、男性1人、女性3人であった。</p> <p><b>【コメント】</b></p> <p>ア) 高齢者のみならず、肥満、喫煙歴のある人は若年であっても重症化リスクが高い。あらゆる年代が感染による重症化リスクを有していることを啓発する必要がある。</p> <p>イ) 今週報告された死亡者数はいなかった。1月12日時点で累計の死亡者数は3,175人となった。</p>
	⑦-3	<p>今週新たに人工呼吸器を装着した患者は2人であり、新規重症患者（人工呼吸器装着）数の7日間平均は、1月12日時点で0.4人/日であった。</p>